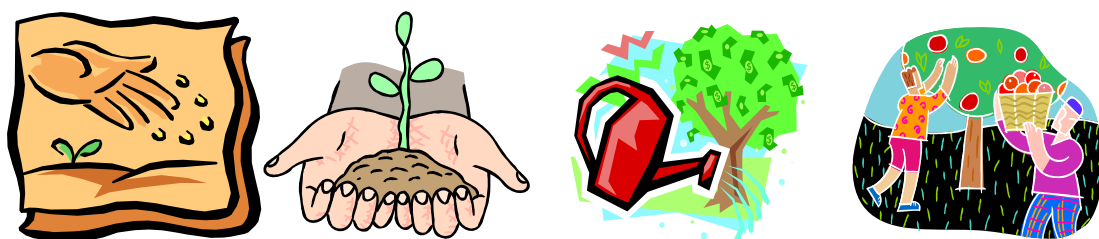


**Change Sagamihara?
Challenge Partnership!**

相模原市協働事業提案制度 平成21年度実施事業 中間ヒアリング報告書



平成21年11月12日

相模原市協働事業審査会

目 次

1. 相模原市協働事業提案制度	
平成21年度 公開中間ヒアリングスケジュール	1
2. 平成21年度 公開中間ヒアリング対象事業の概要一覧	2～5
3. ヒアリングの実施方法等について	6
4. 中間ヒアリング調書(様式)	7～10
5. 自己評価の数値及び審査会意見	11～15
・ おもちゃの病院「さがみはら」運営事業	11
・ 小原本陣の森：小規模多数地主の林地の団地化・生産林を目指す	11
・ 境川案内ハンドブックの作成	11
・ 韮尾根（ニローネ）の里山と農業資源を活用した地域活性化と引きこもり・ ニートの若者に対する自立支援事業	12
・ 「地域若者サポートステーション」の開設事業	12
・ 市民活動団体の自立した組織化を支援する事業	13
・ 動物との関わりから得られる総合的自然体験学習・出張型動物介在教育事業	13
・ 動物との関わりから得られる総合的自然体験学習・出張型動物介在教育事業	14
・ まなびなおし塾	14
・ 森林再生・活用事業	15
・ 市民活動PR事業	15
6. 個別事業に対するヒアリングの概要	16～27
7. 公開中間ヒアリングの様子	28

1. 相模原市協働事業提案制度 平成21年度 公開中間ヒアリングスケジュール

- (1) 日 時 平成21年11月12日(木)
午後1時30時から午後3時30分(予定)
- (2) 場 所 市役所本庁舎 第2別館3階 第3委員会室
- (3) スケジュール

時 間	内 容
午後 1:15 1:30 1:40 3:30	開 場 開 会 (あいさつ・審査会委員紹介・ 公開中間ヒアリング進行説明など) ヒアリング開始 <事業実施者からの取り組み状況等の説明(5分以内) 及び審査会委員からの質疑(5分程度)> ※ おもちゃの病院「さがみはら」運営事業ほか10事業 (1事業あたり10分程度) 閉 会
午後 3:45 ～ 4:30	公開中間ヒアリング終了後 ※ 協働事業審査会を開催します。(非公開)

	事業の名称	実施主体
1	おもちゃの病院「さがみはら」運営事業	・相模原おもちゃドクターの会 ・資源循環推進課
2	小原本陣の森：小規模多数地主の林地の団地化・生産林を目指す	・NPO法人緑のダム北相模 ・相模湖経済環境課
3	境川案内ハンドブックの作成	・NPO法人境川の斜面緑地を守る会 ・水みどり環境課
4	韮尾根(ニローネ)の里山と農業資源を活用した地域活性化と引きこもり・ニートの若者に対する自立支援事業	・NPO法人文化学習協同ネットワーク ・津久井経済課
5	「地域若者サポートステーション」の開設事業	・NPO法人文化学習協同ネットワーク ・働く人支援課
6	市民活動団体の自立した組織化を支援する事業	・NPO法人相模原エスティアート ・市民協働推進課
7-1	動物との関わりから得られる総合的 <u>自然体験学習</u> ・出張型動物介在教育事業	・麻布大学ヒトと動物の関係に関する教育研究センター ・津久井生涯学習センター
7-2	動物との関わりから得られる総合的 <u>自然体験学習</u> ・出張型動物介在教育事業	・麻布大学ヒトと動物の関係に関する教育研究センター ・学校教育課
8	まなびなおし塾	・NPO法人きょういく応援団 ・働く人支援課
9	森林再生・活用事業	・NPO法人ふじの森のがるでんセンター ・藤野経済環境課
10	市民活動PR事業	・NPO法人ナレッジ・リンク ・市民協働推進課

2. 平成21年度公開中間ヒアリング対象事業の概要一覧

(10提案/11事業)

No	事業の名称(仮称)	事業の目的・概要
	実施団体の名称	事業担当課
1	おもちゃの病院「さがみはら」運営事業 (総:200千円、市:190千円)	<p>○地域の公民館やこどもセンターで活躍するおもちゃドクターを養成します。</p> <p>・おもちゃドクターとして養成することによって、使い捨て文化の見直しを促し、おもちゃの修理の場を通して、こどもたちの「物を大切に作る心」「科学する心」を育てます。</p> <p>◆取り組み状況</p> <p>・おもちゃドクター養成講座 6月21日、7月12日、(計21名受講)</p> <p>・受講者に対する実習の場の提供(橋本台リサイクルスクエアなど)</p> <p>・親と子のおもちゃ病院を企画開催</p>
	相模原おもちゃドクターの会	○資源循環推進課
2	小原本陣の森:小規模多数地主の林地の団地化・生産林を目指す (総:2,500千円、市:1,500千円)	<p>○神奈川の水源、相模湖地域の森林保全を行います。</p> <p>・私有林の団地化を推進することによって、継続的な環境保全を担保する経済性のある森づくりを目指します。</p> <p>◆取り組み状況</p> <p>・調査事業、点検路の整備</p> <p>・間伐材の有効利用(間伐材を活用した積み木の有効利用):介護施設でのモニタリング</p> <p>・木工教室の開催:10月25日</p>
	NPO法人緑のダム北相模	○相模湖経済環境課
3	境川案内ハンドブックの作成 (総:1,050千円、市:1,050千円)	<p>○境川の地史や人の暮らし、動植物、多自然川づくりなどを開設するハンドブックを作成し、環境教育の教材を提供し、沿川住民の啓発を促して境川への関心を深め行政界を越えた流域連携を深める契機とします。</p> <p>◆取り組み状況</p> <p>・編集会議 第1回:5月9日(頁配分、掲載する動植物種の選定、執筆分担、年間スケジュール確認) 第2回:9月19日(1次案の手直し等)担当課職員、博物館学芸員との意見調整 第3回:12月6日(紙面の95%完成予定)</p>
	NPO法人境川の斜面緑地を守る会	○水みどり環境課

* ()内 総=総事業費、市=市負担金額
事業の名称は提案時のものです。

No	事業の名称（仮称）	事業の目的・概要
	実施団体の名称	事業担当課
4	蕪尾根（ニローネ）の里山と農業資源を活用した地域活性化と引きこもり・ニートの若者に対する自立支援事業 （総：3,680千円、市：1,000千円）	○ニート・引きこもりの若者と地域の農業技術者との結びつきにより、若者の自立支援と農業振興による地域活性化を行います。 ◆取り組み状況 ・農作業にあたり管理者として若者を配し、農業技術指導者として地域住民の参加を得ている。 ・里山体験イベントの実施（毎月1回） ・児童のための夏期合宿生活 8月6日～10日 ・若者のための農業体験合宿の実施 8月17日～30日、9月14日～21日 ・生産物、加工品の供給
	NPO法人文化学習協同ネットワーク	○津久井経済課
5	「地域若者サポートステーション」の開設事業 （総：17,439千円、市：1,000千円）	○若者に対する総合支援窓口となる「地域若者サポートステーション」を設置します。 ・不登校・引きこもり支援、さらに就職支援に対し豊富な経験と実績を持つNPOが若者の総合支援窓口を運営し、幅広く行政と連携し就労支援にとどまらない包括的な若者支援を行います。 ◆取り組み状況 ・若者サポートステーション開所 7月1日オープン（市勤労者総合福祉センター内） ・オープンシンポジウムの開催（8月21日） ・専門機関等とのネットワークシステムの構築 若者自立支援推進協議会の発足（6月22日）、担当者会議の開催（7月13日、10月22日）
	NPO法人文化学習協同ネットワーク	○働く人支援課
6	市民活動団体の自立した組織化を支援する事業 （総：900千円、市：600千円）	○市民活動団体の運営基盤を強化するための相談事業やセミナーを開催します。 ・市民活動団体の自立化を図る趣旨から、行政による直接支援ではなく、NPOの先人、仲間という立場から事業を展開します。 ◆取り組み状況 ・NPO相談会の開催（申し込み制） 月2回（第1木曜日、第2土曜日） 前期（5月～9月 延べ10日 全30コマ開催） ・例外的に、電話相談、出張相談対応したものも数件あり。 ・市民活動サポートセンター等関係機関の紹介
	NPO法人相模原エスティアート	○市民協働推進課

*（ ）内 総＝総事業費、市＝市負担金額
事業の名称は提案時のものです。

No	事業の名称（仮称）	事業の目的・概要
	実施団体の名称	事業担当課
7 (1)	動物との関わりから得られる総合的自然 体験学習・出張型動物介在教育事業 (総：719千円、市：239千円)	○非日常的な体験（自然の中での宿泊と普段 触れることのできない馬の世話や行動）を 通して、動物や自然を見る目と興味・関心 を高めていきます。 ・2泊3日の宿泊型の体験学習の場を年2回 程度提供します。 専門的知識を持った研究スタッフによる 動物介在プログラムを提供します。 ◆取り組み状況 ・7月28日 応募締切り ・8月1日 対象者選考 ・8月16・17日 保護者説明会 ・8月25日～27日 第1回実施 ・9月28日・29日 保護者説明会 ・10月10日～12日 第2回実施 ・10月20日 アンケート回収・集計
	麻布大学 ヒトと動物の関係に関する教育 研究センター	○津久井生涯学習センター
7 (2)	動物との関わりから得られる総合的自然 体験学習・出張型動物介在教育事業 (総：165千円、市：165千円)	○大学における研究成果を活かし、犬とのふ れあいやそれに係わる知識の習得を通じ て、子ども同士のつながりや活動者との係 わりを深め、子どもたちの心身の健やかな 発達や豊かな人間関係を育むなど、教育効 果を高めていきます。 ・専門的知識を持ったスタッフの派遣及び教 育プログラムの提供を行います。 ◆取り組み状況 ・6月23日、7月7日 緑が丘中学校（特別支援学級） ・9月10日 広田小学校（1・3年） ・10月6日・9日 若松小学校（1・2年） ・11月9・13日 田名北小学校（1年）
	麻布大学 ヒトと動物の関係に関する教育 研究センター	○学校教育課
8	(仮) 生きるための学習講座 ～まなびなおし塾～ (総：5,193千円、市：3,222千円)	○ニート等の若者の就労・自立を支援する長 期的講座を開催します。 ・基礎学力の習得だけではなく、緩やかな社 会参加を促すことが必要となることから、 NPOの持つ豊富な講師陣を活用し、コミ ュニケーション能力や表現力などの「社会 適応力」をつける機会を提供します。 ◆取り組み状況 ・入塾説明会 4回開催 ・5月15日 申し込み締め切り ・6月～ 月・水・金の午前中に授業を実施。 ・様々な機会を捉え、コミュニケーション能 力、社会適応力のトレーニングを行っている。
	NPO法人きょういく応援団	○働く人支援課

*（ ）内 総＝総事業費、市＝市負担金額

事業の名称は提案時のものです。

No	事業の名称（仮称）	事業の目的・概要
	実施団体の名称	事業担当課
9	(仮) 森林再生・活用事業 (総：600千円、市：500千円)	<p>○資格・技術を習得して活動を行ってきたNPOスタッフが間伐・枝打ちを行い、藤野地域の景観地、名勝地等の環境整備を行います。</p> <p>・森林環境の保全とともに、間伐材を活用した商品開発や地場製品の生産拡大などの検討を行い、コミュニティビジネスの創出にも努めます。</p> <p>◆取り組み状況</p> <p>・森林資源を活用した自然体験プログラム ログ講習 5月9日・10日 森林体験協力ボランティア 7月20日 (相模原市内高校生)</p> <p>・景観伐採ポイントの検討・間伐実施 7月8・15日・22日</p>
	NPO法人ふじの森のがるでんセンター	○藤野経済環境課
10	(仮) 市民活動PR事業 ～市民活動推進普及啓発事業～ (総：500千円、市：500千円)	<p>○市民活動をわかりやすく伝える市民活動PRビデオ(DVD)を作成します。(前期2団体、後期2団体の計4番組)</p> <p>・市民活動においても、担い手の高齢化・後継者の不足が課題となっていることから、提案団体の持つ若者支援のネットワークを活かすことにより、若者の社会参加、市民活動参加の促進に努めます。</p> <p>◆取り組み状況</p> <p>・前期分撮影(7月5日：2団体)</p> <p>・編集会議(7月23日、8月27日)</p> <p>・上映会及び後期分募集説明会(9月18日)</p> <p>・関係機関等との調整 J-COMとの連携を視野に入れた番組制作についての意見交換(10月13日)</p> <p>・DVD配布等 市施設での放映(順次)、図書館及び市民協働推進課での貸し出し、家電量販店でのモデル放映</p> <p>・後期分撮影打合せ(2団体：10月末)</p>
	NPO法人ナレッジ・リンク	○市民協働推進課

* ()内 総＝総事業費、市＝市負担金額

事業の名称は提案時のものです。

3. ヒアリングの実施方法等について

(1) 審査主体

相模原市協働事業提案制度に関する要綱第19条の規定により、協働事業審査会委員によりヒアリングが行われた。

(2) 審査会委員

氏名	役職	備考
牛山久仁彦	明治大学政治経済学部 教授 (審査会会長)	出席
瓜生ふみ子	特定非営利活動法人 CCCNET 代表理事	欠席
佐藤彰夫	相模原市自治会連合会監事	出席
北條論	東京地方税理士会 専務理事	出席
山本満	株式会社 さがみはら産業創造センター 専務取締役	出席

(3) ヒアリングの方法等

ア. ヒアリング調書の作成

実施団体及び事業担当課に対し、別紙中間ヒアリング調書を送付し、それぞれの立場から自己評価を行い、必要事項を記載の上、あらかじめ事務局である市民協働推進課へ提出していただき、審査会委員へ配布を行った。

ヒアリング調書は事業の概要、A：準備段階の状況、B：実施段階の状況、C：事業の評価、D：協働したことの効果、E：パートナーシップの原則、F：自己評価の5つの区分に渡り25の設問を用意し、a・b・c・dの4段階の中から該当する意識項目にチェックを入れてもらう形態とした。

イ. ヒアリング調書のねらい

中間ヒアリングの時点では、事業の効果・成果を図ることが難しいことから、中間ヒアリングの狙いは、提案事業の採択からこれまでの双方の協働の関係性を測るものとして、双方の意識差を探る形のものとした。

ウ. 評価の数値化

提出された調書の4段階の自己評価チェックを、a=4点、b=3点、c=2点、d=1点と置き換え、合計点を100点とした。

互いの評価にどのような違いが見られるか、合計得点の開きがあるかどうか、それぞれの項目の自己評価の違いや全体での差点はどのようになるか、数値化して表すこととした。

なお、報告書に掲載した、それぞれの評価は審査会委員のみの資料として、中間ヒアリングを実施した。

エ. ヒアリングの方法

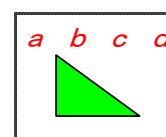
個別の提案に対するヒアリングは、審査会会長が進行役となって行った。1事業あたりの、事業の概要説明及び質疑応答は10分とし、はじめの5分で実施団体が事業の取り組み状況についての説明及び事業担当課による補足説明が行われ、後の5分で、審査会委員の質問に回答する形で行われた。




オ. 審査会意見のとりまとめ

中間ヒアリングでは、提案時に事業の継続を希望しているものに対する、継続することの妥当性等について、意見を求めることとしていることから、ヒアリング終了後審査会を開き、意見の取りまとめが行われた。

4. 中間ヒアリング調書(様式)

平成20年度採択：平成21年度実施事業			
協働事業提案制度事業 中間ヒアリング調書			
整理番号			
記入者区分	<input type="checkbox"/> 市民	<input type="checkbox"/> 行政	
事業の名称			
団体の名称			
事業担当課			
事業の目的			
事業実施計画の概要			
取り組み状況			
事業予算額	円		
市負担金額	円		
予算の執行状況	%程度 (平成 年 月 日現在)		
事業継続の有無	<input type="checkbox"/> なし ・ <input type="checkbox"/> あり		
平成22年度事業予算額	円	(プレゼン時の金額：)	円)
平成22年度市負担金希望額	円	(プレゼン時の金額：)	円)
<p>* 調書の記入方法等について</p> <p>① A～Fの各設問項目(25項目)は、次のa～dの該当する□にチェック(レ印)をお付けください。</p> <p>a ⇒ 肯定する (はい) (おおいに思う)</p> <p>b ⇒ どちらかと言えば肯定する (どちらかと言えば思う)</p> <p>c ⇒ どちらかと言えば否定する (どちらかと言えば思わない)</p> <p>d ⇒ 否定する (いいえ) (思わない)</p>			
<p>② 自由意見欄には、各ブロックの設問項目に関連し、良かったことや想定外だったこと、ご回答の理由などの補足事項がありましたら自由にお書きください。 ※なるべく簡潔にお書きください。</p>			



事業の名称					
記入者区分		<input type="checkbox"/> 市民		<input type="checkbox"/> 行政	
次のA～Gの28項目について、ご記入ください。					
A：準備段階の状況 <i>(a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、 c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))</i>		はい			いいえ
1	協働事業の実施にあたり、十分に協議(打合せ)の機会を持つことができましたか。(事前協議の充実度)	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	協働事業の実施にあたり、解決すべき課題や事業の目的、事業の実施内容、役割分担等について、十分確認し合うことができましたと思いますか。(共通認識)	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	協働事業の実施にあたり、十分な準備期間があったと思いますか。(準備期間の適切さ)	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	協働事業の実施にあたり、協議等は円滑に進んだと思いますか。(協議の円滑さ)	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項がありましたらお書きください。)				
B：実施段階の状況 <i>(a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、 c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))</i>		はい			いいえ
5	事業の進捗状況等を確認する機会を持つことができますか。(意思疎通：情報交換・進行管理・危機管理・予算管理)	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	実施団体(提案団体)は、取り決めた役割を十分に果たしていると思いますか。(役割分担の妥当性)(実施団体：自己評価、行政：実施団体に対する評価)	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	行政は、取り決めた役割を十分に果たしていると思いますか。(役割分担の妥当性)(行政：自己評価、実施団体：行政に対する評価)	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	現段階で、事業は計画通りに進んでいると思いますか。(想定外のことはないか：計画の妥当性)	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項がありましたらお書きください。)				
C：事業の評価 <i>(a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、 c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))</i>		はい			いいえ
9	取り組んでいる事業は、市民ニーズや社会的要請を的確に捉えたものだったと思いますか。(課題・ニーズ分析の適切さ、事業の妥当性)	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10	取り組んでいる事業は、市民団体、行政双方の特性が十分活かされたものになっていると思いますか。(主体性・特性の発揮)	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11	事業に取り組んだことによって、新たに気づいたこと、事業の発展につながるヒントを見いだすことができましたか。(事業の発展性・拡張性・将来展望)	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12	実際に事業に着手してみて、経費は事業内容に見合った適切なものだったと思いますか。(予算の適切さ)	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項がありましたらお書きください。)				

D：協働したことの効果 (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
13	協働したことによって、団体組織にとって、期待したメリットが得られていると思いますか。(実施団体にとっての満足度)	a <input type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
14	協働したことによって、行政組織にとって、期待したメリットが得られていると思いますか。(行政にとっての満足度)	a <input type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
15	協働したことによって、想定する成果(効果)を上げることができていると思いますか。(単独で取り組んだ場合との比較、目標達成度・受益者の満足度)	a <input type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
16	協働したことによって、地域社会にインパクトを与えることができたと思いますか。(他団体や地域社会など外部への波及効果が期待できるか)	a <input type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項がありましたらお書きください。)				
E：パートナーシップの原則 (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
17	自立の原則：互いに依存することなく、お互いの役割を自覚して事業に取り組むことができている。	a <input type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
18	対等の原則：対等な立場で事業に取り組むことができている。	a <input type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
19	相互理解の原則：互いの立場の違いや特性を認め合い、事業に取り組むことができている。	a <input type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
20	役割合意の原則：双方の役割を理解し、効果的に事業に取り組むことができている。	a <input type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
21	目標共有の原則：協働することの意義を明確にし、互いがその目標を共有して事業に取り組むことができている。	a <input type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
22	公開の原則：取組みの状況をホームページやニュースレター等で広く市民に対し伝えることができている。	a <input type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項がありましたらお書きください。)				
F：自己評価 (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
23	事業の必要性：事業をやって良かったと思いますか。	a <input type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
24	協働の必要性：協働しなければ的確な効果・成果を上げることのできない事業だと思いますか。	a <input type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
25	役割分担の妥当性：事業の妥当性や協働の必要性を勘案し、役割分担は適切なものとなっていると思いますか。(互いの経費負担も含む)	a <input type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>

G : その他 (以下は必要に応じてお書きください。)

26	<p>事業を実施する上で工夫したことがあればお書きください。</p>
27	<p>実施した事業に関し、事業関係者以外の方から受けた感想や評価などがあればお書きください。</p>
28	<p>事業を実施したことにより、新たな広がりにつながったこと（つなげたいこと）があればお書きください。</p>
その他	

5. 自己評価の数値及び審査会意見

事業の名称	1 おもちゃの病院「さがみはら」運営事業（おもちゃの病院支援事業）																								
-------	-----------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※ 自己評価及び意識差（a = 4、b = 3、c = 2、d = 1）

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	合計
市民	4	4	4	4	4	4	4	3	4	4	3	4	4	4	4	3	4	4	4	4	4	3	4	4	4	96
行政	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	99
差	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3

【審査会意見】

- ◆ 次年度継続することが妥当な協働事業と考えられる。
- ・ 審査会において、特に課題とする意見はありませんでした。

事業の名称	2 小原本陣の森：小規模多数地主の林地団地化・生産林を目指す																								
-------	--------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※ 自己評価及び意識差（a = 4、b = 3、c = 2、d = 1）

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	合計
市民	3	3	4	4	3	3	3	3	4	3	4	3	4	4	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	90
行政	2	3	4	3	2	3	2	2	4	3	4	3	3	3	4	3	3	3	3	3	4	3	4	3	2	76
差	1	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	1	1	15

【審査会意見】

- ◆ 次年度継続することが妥当な協働事業と考えられる。
- ・ 審査会において、特に課題とする意見はありませんでした。

事業の名称	3 境川案内ハンドブックの作成																								
-------	-----------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※ 自己評価及び意識差（a = 4、b = 3、c = 2、d = 1）

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	合計
市民	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3		4		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	91
行政	4	4	3	4	4	4	4	4	4	4	3	3	4	4	4	3	4	4	4	4	4	3	4	4	4	95
差	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		0		0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3

【審査会意見】

- ◆ 審査会の場面で、事業実施状況について特に課題とする意見はありませんでした。

事業の名称	4 韮尾根の里山と農業資源を活用した地域活性化と引きこもり・ニートの若者に対する自立支援事業																								
-------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※ 自己評価及び意識差 (a = 4、b = 3、c = 2、d = 1)

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	合計
市民	2	2	3	2	2	3	2	3	3	2	3	3	2		2	2	2	2	2	2	2	3	3	2	2	56
行政	2	2	3	2	2	3	2	3	3	3	3	3	2	3	2	2	3	3	3	3	2	3	3	3	3	66
差	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0		0	0	1	1	1	1	0	0	0	1	1	7

【審査会意見】

- ◆ 次年度継続することが妥当な協働事業と考えられる。
- ※ 次のような意見がありました。
- 津久井経済課ではなく本庁に所管する部署があっても良いのではないか。
- 働く人支援課が所管してもおかしくない事業ではないか。
- いずれにしても、経済部が所管する事業だと考えられる。

事業の名称	5 地域若者サポートステーションの開設事業																								
-------	-----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※ 自己評価及び意識差 (a = 4、b = 3、c = 2、d = 1)

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	合計
市民	4	4	4	4	4	3	4	3	4	4	4	4	4		4	3	4	4	4	4	4	3	4	4	4	92
行政	4	4	4	4	4	4	4	3	4	4	4	2		4	4	2	3	4	4	4	4	4	4	4	3	89
差	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2			0	2	2	0	0	0	0	1	0	0	1	9

【審査会意見】

- ◆ 審査会の場面で、事業実施状況について特に課題とする意見はありませんでした。

事業の名称	6 市民活動団体の自立した組織化を支援する事業（市民活動団体支援事業）																								
-------	-------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※ 自己評価及び意識差（a = 4、b = 3、c = 2、d = 1）

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	合計
市民	4	4	3	4	4	4	4	3	4	3	4	3	3	4	3	4	4	4	4	4	4	3	4	4	4	93
行政	4	4	3	4	4	4	3	3	3	3	4	4	3	4	3	3	4	4	4	4	4	3	4	4	4	91
差	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4

【審査会意見】

- ◆ 審査会の場面で、事業実施状況について特に課題とする意見はありませんでした。

事業の名称	7-1 動物の関わりから得られる総合自然体験学習 ・出張型動物介在教育事業(宿泊自然体験型)																								
-------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※ 自己評価及び意識差（a = 4、b = 3、c = 2、d = 1）

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	合計
市民	3	3	4	4	3	4	4	4	4	4	4	3	4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	4	4	4	95
行政	3	3	4	4	3	4	4	4	4	4	4	3	4	3	3	4	4	4	4	4	3	4	4	3	4	92
差	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3

【審査会意見】

- ◆ 次年度継続することが妥当な協働事業と考えられる。
- ※ 次のような意見がありました。
- 事業担当課としては、今年度で協働事業を終えたいという意向があるようであるが、継続にあたり資金的面が課題となっているのであれば、かなり小さな話であると思う。
- 馬や動物と触れ合うということは有効であり、やった方が良い事業だと思われる。
- 1年でやめるものではないのではないか。
- 何年かは市のお金を使い、その後自立という話しになるのではないか。
- 資金提供を行うことだけという関係性でも、行政として重要な役割を担っていることになるのではないか。
- 1本の提案を2つに分けて実施しているが、行政の縦割りに合わせなければならないということも、今後の課題だと思う。

事業の名称	7-2 動物の関わりから得られる総合自然体験学習 ・出張型動物介在教育事業(出張型)																								
-------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※ 自己評価及び意識差 (a = 4、b = 3、c = 2、d = 1)

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	合計
市民	3	4	4	4	3	4	4	2	4	4	4	1	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	4	4	92
行政	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	2	3	3	3	3	3	1	3	3	2	69
差	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	2	1	1	1	1	1	2	1	1	2	29

【審査会意見】

- ◆ 次年度継続することが妥当な協働事業と考えられる。
- ・ 審査会において、特に課題とする意見はありませんでした。

事業の名称	8 (仮) 生きるための学習講座 (学びなおし塾「いっぽ」)																								
-------	--------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※ 自己評価及び意識差 (a = 4、b = 3、c = 2、d = 1)

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	合計
市民	2	3	3	2	3	3	3	2	4	4	2	2	4	3	3	2	3	3	3	2	2	1	4	4	3	70
行政	2	2	2	2	4	3	3	2	4	4	3	2		3	3	2	4	4	4	4	4	2	4	4	3	74
差	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0		0	0	0	1	1	1	2	2	1	0	0	0	12

【審査会意見】

- ◆ 学びなおし塾については審査会として継続を認めるものの、評価は厳しいものがある。行政、NPOともに参加者を増やすための努力をしていただきたい。また、若者サポートステーションや就職支援センターなどの支援機関とも連携を深めた中での取組みをお願いしたいと考える。
- ※ 次のような意見がありました。
 - 学びなおし塾をどう見るか、かなり苦戦しながら事業を行っていると思う。
 - やめるといえることはないと思うが、やり方を変えるということも必要になってくると思う。
 - 学校現場とつなげていく必要があるのではないかな。
 - 実際に学校には悩んでいる者がおり、先生がこういう事業につなげることも必要ではないかな。
 - 独自に広報を見てパラパラと応募してくるという状況だと思われる。そうであるとする、広報宣伝を増やさなければならぬということになる。
 - 若者サポートステーションの事業として展開した方が効率的ではないかな。
 - 教育委員会との連携が図られなければ効果を上げることはできないのではないかな。
 - 受講者が集まらないということは効果がないということではないかな。受講者負担の件も含め、今後、色々と検討してもらった方が良い。
 - 受講者負担は高くはないと思うが、ネックになっている。
 - もともと行政提案型の事業であり、7人という実績からすれば協働事業として実施することはどうなのか。
 - サポートステーションがうまくいっているのであれば、そことうまく連携してやらなければならないと思う。行政としても、サポートステーション等としっかりつなぐようにしなければならないのではないかな。

事業の名称	9 森林再生・活用事業																								
-------	-------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※ 自己評価及び意識差 (a = 4、b = 3、c = 2、d = 1)

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	合計
市民	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	4	3	4	89
行政	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	99
差	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0		0	10

【審査会の主な意見】

◆ 審査会の場面で、事業実施状況について特に課題とする意見はありませんでした。

※ 次のような意見がありました。

- 良い事業をしているので、啓発事業についてはお金をつけてもっとやったらいいのではないかと。
- もう少し、ソフト面でやった方が良くと思う。
- 双方が協働事業として継続しなくて良いということであるが、昨年度、審査会としては継続を認めたものであり、継続しないことについて、もう少し説明が必要だったように思われる。
- 資金的な負担は、今年度で終わることとなるが、その他の部分では協働して進めていくという認識を持っていて良いか。森林再生事業は継続して行われるが、予算はゼロという認識で良いか。
- 旧市の方にも波及するような事業展開をしても良いのではないかと。藤野地域にとどまった事業になっているので、旧市域へも来て活動してもらいたいようなことがあっても良いのではないかと。そのよう趣旨の事業経費を少し残すことを考えても良かったのではないかと。
- 双方が協議した中で、資金的なものは必要ないとの事であるので、審査会としてはこれ以上踏み込むことはできないと考える。

事業の名称	10 市民活動PR事業																								
-------	-------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※ 自己評価及び意識差 (a = 4、b = 3、c = 2、d = 1)

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	合計
市民	3	4	4	4	4	4	4	4	3	4	4	4	3	4	4	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	96
行政	3	4	4	4	4	4	4	4	3	4	4	4	3	4	4	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	96
差	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【審査会意見】

◆ 次年度継続することが妥当な協働事業と考えられる。

- ・ 審査会において、特に課題とする意見はありませんでした。

6. 個別事業に対するヒアリングの概要

No	事業の名称	実施者
1	おもちゃの病院「さがみはら」運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ・相模原おもちゃドクターの会 ・資源循環推進課
<p>概要説明（実施団体）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ドクター養成講座には31名の応募があった。 ・ 6月、7月の2回に分けて講座を実施した。 ・ 受講者21名のうち7名が、毎月開院している橋本台のリサイクルスクエアでの実習を行っている。 ・ その他、市民活動サポートセンターからの紹介により、4名がおもちゃドクターの会に入会した。 ・ 実習者を含め、ドクターは総員24名となった。 ・ 周知・啓発・PRの関係については、6月にのぼり旗を作成し、病院開院の際に入り口などに掲げている。 ・ 7月には市民活動PR事業のビデオ撮影に協力した。 ・ 10月には市主催のリサイクルフェアにPRを兼ねて出店し、15件の患者の対応を行った。 ・ 新規病院の開設については、10月に陽光台こどもセンターにオープンした。 ・ 今日現在13会場で開院している。 ・ 今後は、開院実績のない北部地域を重点的に事業展開を図って行きたいと考えている。 <p>補足説明（事業担当課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成18年5月から橋本台リサイクルスクエアにおいて、おもちゃの病院を毎月1回開院していただいている。 ・ 活動の場を提供させていただいているという関わりを持ってきた。 ・ 今回の協働事業という位置付けにより、広報やホームページについても積極的に掲載させていただくことができ、市としても協力しやすくなった面があると考えている。 <p>質疑応答（○：審査会委員、□：実施者、■：事業担当課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 旧市内については多くのおもちゃ病院があるが、目的として津久井地域への普及の状況はどうか。 □ 年度末までに1度、城山方面でドクター養成講座を開催したいと考えている。その延長線上で、城山おもちゃ病院オープンに持って行きたいと考えている。 ○ ドクター養成講座には31名の応募があり、21名が受講したということであるが、10名はどのようになったのか、把握されているか。 ■ 15名定員で募集を行ったところ、31名の応募があった。会場の関係上、広報には、応募多数の場合は抽選とすることを謳った。残り16名の方には、急遽追加で講座開催日を設定し、都合が付くのであれば受講しないかという案内を行い、結果として6名の参加をいただいたということである。 ○ 市の広報を利用した効果はどうか。 □ 広報が発行された日から応募があった。 ○ 広報が出たことによりどのくらい増えたのかという数はわかるか。 □ 正確な数字はつかんでいないが、広報に掲載している病院では最大で50件、少なくとも20件のおもちゃが集まってくるが、掲載していない病院では5件程度になるので、それだけ広報の力は大きいものと捉えている。 		

No	事業の名称	実施者
2	小原本陣の森：小規模多数地主の林地の団地化・生産林を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO法人緑のダム北相模 ・ 相模湖経済環境課
<p>概要説明（実施団体）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今期の予算を250万円としているが、9月30日現在で約55%の執行率となっている。 ・ 小さな林地を持っている地権者の区画が26ある。 ・ 既に整備が終わったところが7区画、整備中のところが2区画、整備の調整が整っているところが3区画、合計12区画、全体の46%の話が進んでいる。 ・ 残り14区画については、まだ話はしていない。 ・ 普通は森林組合が取組むものであるが、NPOとしては初めてのものである。 ・ 月一回の定例活動で、大きな事業ができるのかという質問もあったが、月一回でもきちんと積み上げていけば、やっていけるものと考えている。 ・ 団地化のほかに、間伐材を有効利用しお金を生み出す仕組みづくりにも取り組んでいる。 ・ 積み木を8万個つくり、4万個が売れている。1万個が約60万円である。 ・ 相模湖の福祉施設でも利用されており、評判が良い。 ・ 荒れた森を整備している。きれいな森に変化してきている。(写真を提示) ・ 境界を明確にするための点検路作りとして、約450メートルを作っている。 <p>補足説明（事業担当課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 積み木については、イベントの際に活用し子どもたちには人気があるが、介護予防の観点からも使えないものかということで介護施設に提供させていただき、モニタリングを行っているところである。 ・ 市役所の中の課の看板も間伐材を使って設置していきたいということで、現在庁内調整を図っている。 <p>質疑応答（○：審査会委員、□：実施者、■：事業担当課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ヒアリング調書には、「話し合いをする機会がない」という課題が上げられている。協働事業を進める話し合いが忙しいからできないと書かれているが、今後どのようにクリアしていくのか。 □ 月々発行するニュースレターには取り組み状況を詳しく掲載し、報告を上げているので、取り組み自体については把握していただいていると思っている。打合せの機会を持つことができていないというのは事実であるが、今回の中間ヒアリングにあたり、何度か打合せを行っている状況であり、これを機に双方協力しながら事業を進めて行きたいと考えている。 ○ 間伐を行い、木を有効利用していこうということは分ったが、もともとは団地化をして、道路整備をし、生産性を高めていくことはかなり難しい問題であり、やるかやらないかを含めどのように考えているか。 □ 難しいからといって逃げていては何もできない。NPO団体が森林整備に取り組むということがどのような意味を持つのか、これを成功させることができれば、森に対する一般の市民の方の認識が変わるのではないか、そのような意識の中で取り組んでいる。 ○ 地権者の方の反応はどうか。 □ NPOが森に入るようになったことによって、地権者が自ら森に入ってくるようになった。地権者からの寄付を受けることもあった。地域と非常にうまく行っていると思う。 ○ 最終的には道路を作りたいということであり、行政の役割と思われるが、そこまで市としてもやっということなのか。 ■ 森林については50年、100年先で捉えていくことになると思う。植生調査や地盤の調査をしている最中であるが、間伐材等を運び出すためには経路なり林道を整備して行かなければならないと思っている。今後この事業の状況の中で、できる方向でのモデルになっていけばと考えている。 		

No	事業の名称	実施者
3	境川案内ハンドブックの作成	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人境川の斜面緑地を守る会 ・水みどり環境課

概要説明（実施団体）

- ・ どのように協働しているのかに絞って報告を行う。
- ・ 3月中旬に担当課と一緒に博物館に出向き、協力を依頼した。
- ・ 地形の部分、考古学の部分については学芸員に執筆してもらうこととなった。
- ・ 5月下旬に、他の自治体や庁内の他の部署から、色々な資料の提供について依頼することになったが、その要請文については、市長名で作成、発送してもらった。
- ・ 現地に学芸員を案内する、NPOで書いた部分をチェックしてもらう、現在第2次案を作成中である
- ・ 今後は表紙の書き方、後付などの表記の仕方を担当課と調整していく。
- ・ 12月上旬の第3回の編集会議には、事業担当課、博物館の担当者にも入っていただき最後の調整に入りたい。ここで、95%を固めたいと考えている。
- ・ 確実に使うことになった写真、地図の使用の許可申請が必要となるが、担当課からの事務連絡一本で済むということもあり、協働事業で行っていることによるスムーズな面を感じている。
- ・ 3月下旬に発行を予定しているが、配布する体制やPR活動に関しては行政、NPOそれぞれのルート、媒体を利用して有効に進めて行きたいと考えている。

補足説明（事業担当課）

- ・ 事業担当課としては行政間の協力という面で、境川自体が行政境を流れる川であり、県、町田市、大和市、東京都に協力をいただき、色々な資料をいただいた。どちらの行政もそれぞれの管轄の資料は持っているが、川はつながっているのに資料自体が繋がらない状況にある。境川流域の情報がすべて入るようなハンドブックの作成ができればと考えている。
- ・ 行政からの協力依頼、他市町村では取組んでいない事業であることから、このあたりのことがメリットであると感じている。
- ・ 今後活用方法が問題になるかと思うが、流域の小学校に依頼を出し、学校教育の場でも活用していただければと考えている。既に学校教育課との調整はしているが、流域のそれぞれの小学校に持参する方法もできるということである。また、博物館、図書館、町田市、大和市の流域小学校もあり、担当課を通して配布の依頼をさせていただき予定である。

質疑応答（○：審査会委員、□：実施者）

- 作る方に力を入れていると思うが、PR面、特に町田流域に対しては具体的にどのようにPRをして行くのか。
- 町田市の公園緑地課には、資料提供等の御協力をいただいているので、そちらを通して、情報公開を行っている部署で資料配布をしていただきたい、ということをお願いをしている。タウンニュースや朝日リビングも影響力があり、これまでもつながりがあるので、そういうところとも連携していきたい。
- ハンドブックからさらに実際に現地を見てもらえるという活動につながると良いと思うが。
- PRを行い、希望者には、切手をつけて返信用の封筒をいただければ送付する形で、市役所に出向かなくても、手に入ることも考えたいと思う。

No	事業の名称	実施者
4	葦尾根（ニローネ）の里山と農業資源を活用した地域活性化と引きこもり・ニートの若者に対する自立支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人文化学習協同ネットワーク ・津久井経済課

概要説明（実施団体）

- ・ 津久井地域にある中山間地の耕作放棄農地を借りて、若者と地域の人たちと一緒に、農業体験のプログラムを作り出す事業である。
- ・ 以前から取組んでいる事業を協働事業の中で発展させていきたいということで今回お願いしたものである。
- ・ 実施の状況としては、従来よりも沢山の参加者を迎えて様々な取組みを展開することができるようになってきている。
- ・ 5月からはじめた月1回の農業イベントにおいても毎回20名くらいの参加を得てきている。
- ・ 先日初めて広報に掲載したイベントでは、市民にも参加していただき35名くらいの参加があった。
- ・ 月1度のイベントだけではなく、長期の合宿を通した農業体験には高校生も含め、かなり多くの参加を得ている。（総勢60名くらいの参加があった。）
- ・ ブルーベリーが沢山栽培されている地域になっているが、一部を借受し、摘果とジャム作りを行った。
- ・ 今後の取組みであるが、より多くの市民との交流の場の中で若者が農業体験の提供者として成長しながら、地域の人たちと一緒に地域資源を使った観光的な取組みにも発展していくことを期待して始めているわけであるが、眠っていた農地をよみがえらせることはNPOだけではできない。
- ・ 行政のおかげで、若者がやっている農業生産法人を誘致することができ、かなりの遊休農地が生産農地として変わりつつある。
- ・ 今後、農業生産法人とNPOがコラボレーションし、より本格的な農業体験を通した事業展開を進めることができるのではないかと考えている。
- ・ 当面の協働の形としては、従来の取組みにそう大きく発展しているとは考えられないが、来年、再来年に向けた中長期の計画の中で、協働を抜きにしては発展的な展望は見出せないと考えている。
- ・ 事業の達成率については、現地の農業技術提供に対する謝礼と農機具の使用料、種、苗の購入資金として、50%くらいを消費している。

補足説明（事業担当課）

- ・ 今後は体験をした若者が農業に興味を持っていただけることを期待しているところである。
- ・ 現在行政としてうまく関わりを持てずにいるが、これから良く話しあう機会を持ちながら進めて行きたい。
- ・ 広報についても今後早めに周知し、多くの人に参加してもらえるようにしたい。

質疑応答（○：審査会委員、□：実施者、■：事業担当課）

- 自己評価について、なかなか意思疎通がうまく行かないという中で、行政の方に課題があったように見えるが、長期展望は別として、足りなかったものは何か。
- 定期的に協議の場を設けるといこと、それを行政の側が主導するという体制ができれば良いのではないか。
- 協働事業事務局の拡充とある点について、行政に事務局を主導して欲しいということによいか。
- 確立するまでは行政が主導して進めていただかないと、一NPOが地域に入って協働のシステムを作っていくことは、難しいと思う。
- 協議不足の点は、否定できない。できるだけ協議の時間を作って行きたい。
- 双方とも若干自己評価が低いのが課題ではないか。

No	事業の名称	実施者
5	「地域若者サポートステーション」の開設事業	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人文化学習協同ネットワーク ・働く人支援課

概要説明（実施団体）

- ・ 4月から厚生労働省の委託事業として認定され、7月1日からオープンしている。
- ・ 協働という点については、企画、実施に関してはNPOが、実施環境を整備していただくことについては、行政に大きく関わってもらおうという協働の形で出発した。
- ・ 100人くらいの関係者に集まっていただきオープンシンポジウムを開催した。
- ・ 事業の中身は、主に多くの若者の困難の相談に乗りながら、地域にある専門機関につなげていくことである。
- ・ 就職活動には少し距離があるという者の様々な社会体験プログラムを提供しながら、一步一步スモールステップで社会につなげていく事業である。
- ・ そのためにも地域がつながり、専門機関の専門力を総合的に若者たちの自立への支援につなげていくということが課題である。
- ・ 概ね初年度にしては進んできていると思っている。
- ・ 数値としては、7月から新しく支援を求めてやってきた人の数が、100弱になっている。
- ・ 相談活動については、一人につき1回では済まないもので、2回3回となり200件以上となっている。
- ・ 訪問者については、11月現在で660人くらいという形でおおよそ予想していた利用者数よりも少し多くなっている。
- ・ 地域の支援ネットワークを作るということに関しては、全国的に見ても早い段階で協議会が発足している。
- ・ 協議会がうまく機能しているかについてはこれからの課題であるが、形は徐々に出来上がりつつあるのではないかと考えている。
- ・ 来年度への準備期間ではあるが、準備期間として十分事業は進んできている。
- ・ 各種機関とのネットワークができてくれば、一人の若者の様々な総合的な支援を達成できる関係ができるのではないかと期待している。

補足説明（事業担当課）

- ・ ステーションの運営という柱のほかに、地域の若者の自立を支援している各種機関（行政、NPO、ハローワーク、商工会議所等）とのネットワークを構築し、そのネットワークを活用した支援を行っていくというのがもう一つの柱となっている。
- ・ 市としても、早い段階からネットワークについての準備を行い、7月1日のサポートステーション開設の前の段階となる、6月に既に協議会を開催させていただいており、その後、担当者会議も2回開催している。
- ・ ネットワーク、連携ということになるので、これから徐々に緊密な連携が図られていくように思っている。
- ・ 行政の役割として、キャリア開発プログラムを実施するにあたっての支援があるが、今年度9月頃から、いくつかのメニューをお願いし、既に実施していただいているところである。
- ・ 少ない予算ではあるが、順調に動き出してきているのではないかと認識している。

質疑応答（○：審査会委員、□：実施者）

- 予算が少ないという話であったが、1,700万円の総予算の中で市の負担が100万円ということであるが、市のサポートが少ない印象を受ける。1,700万円には、受講料が含まれたものか。
- 1,700万円のうちの1,600万円については、厚生労働省の委託費になっている。主にサポートステーションの person 費になる。市の協働事業の負担金としては100万円であるが、キャリア開発プログラムについては別途150万円くらいの委託を行っている。
- 事業評価シートの実績として書かれている相談件数については、誰が集計をしているのか。行政は144件と細かい数字を書いている。
- 集計はサポートステーションで行い、毎月市の方に報告をあげてもらっている。厚生労働省に報告する義務があり同じ数となっている。
- 今回のヒアリング調書にも、双方同じ数が表記されるべきだったのではないか。
- 調書を作成した日が異なるので、若干違っているとしても、元のデータは同じものとなっている。

No	事業の名称	実施者
6	市民活動団体の自立した組織化を支援する事業	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人相模原エスティート ・市民協働推進課

概要説明（実施団体）

- ・ 結論から申し上げますと、協働に対して非常にうまくいっているものと感じている。
- ・ 日常的に電話のやりとりが行われており、事あるごとに相談をさせていただいている。
- ・ 資料等の提供についても協力的にいただいております、ありがたい。
- ・ 以前からNPO設立にあたっての支援活動は行っていたが、市との協働事業ということで、信用性が全く違うという手ごたえを感じている。
- ・ また、行政担当者が、セミナーや相談会の会場に来ていただき実際のところを見ていただき、御指導いただいていることについてありがたいと思っている。
- ・ 事業の取組みについては、組織化を支援するためのNPO相談会、講演会、セミナーの開催（8月、9月、10月に開催し述べ30数名の参加があった）、成功事例、失敗事例を当事者同士が共有する交流会の開催（3月20日開催に向けて企画）、の3本である。
- ・ 9月までに10回相談会を開催しており、相談依頼者は述べ20名である。
- ・ 講演会の開催は、8月、9月、10月に開催した。
- ・ 今後3月の末までに、相談会を10回程度開催する予定である。
- ・ 相談については、受付票とともに、それぞれの相談に対するカルテを作成し、2度目の相談、3度目の相談に来ていただいた時に、相談者の進捗状況を確認できる様式としている。
- ・ 20件の相談の中で、継続して5回きている方が1名、4回の方が1名、2回の方が1名、1回のみというのは半分以下となっている。
- ・ 段階を踏んで相談を受けているというような傾向が現れている。
- ・ 相談の分野についても、想定以上に広いことが分かった。
- ・ 相談の概要については、組織の拡大推進よりも、まずは立ち上げるということが課題となっている方が多い。
- ・ これまでの相談で感じていることは、NPOについてなかなか理解がされていない、自分としては情熱はあるが一緒にやる仲間が見つからない、気軽に相談できる機会がない、来年4月から市が認証事務を行うことについての期待感がある、という4点である。

補足説明（事業担当課）

- ・ この事業に対し、行政として、どこまでどの様にかかわればよいか、ということについては課題意識を持っているが、現在のところ県で認証事務が行われている中では、NPO設立にあたっての手引きを提供する、助成金制度等の情報を提供する、というような役割であると感じている。
- ・ 昨年度の審査会意見を踏まえた単年度事業という位置づけになるので、来年度からNPO法人設立認証事務の移譲を受け、団体を設立する時だけではなく、その後の報告というものが非常に大事になってくると思うので、その辺りのことを行政としてもしっかりとつないでいけるよう、施策を展開していく必要があると感じている。

質疑応答（○：審査会委員、□：実施者、■：事業担当課）

- 来年は申請しないということであるが。
- 単年度事業として採択されていることから、来年度以降については、市民活動サポートセンター機能並びに関係諸機関との連携を図った中での事業展開を行っていきたいと考えている。

No	事業の名称	実施者
7-1	動物との関わりから得られる総合的自然体験学習 ・出張型動物介在教育事業	・麻布大学 ヒトと動物の関係に関する教育研究センター ・津久井生涯学習センター

概要説明（実施団体）

- ・ 自然環境下における子どもたちの遊び、自然体験の減少を何とかしたい、また子どもたちの非日常的な体験を通して心身の発達、教育効果を高めることを主たる目的として実施してきました。
- ・ 馬に乗る、触る、動物を介在して、目的を達成したいと考え取り組んできました。
- ・ 8月後半と10月中旬に2回行った。
- ・ 協議の中で、色々と広報していただき、70名を超える応募をいただいた。この中から40名を対象とし、1回20名定員とし2回行った。
- ・ 残念ながらインフルエンザが流行り、キャンセルもあったが、8月においては17名、10月においては16名の参加を得ている。
- ・ アンケート等も保護者の方、児童に対しても行い、その結果を踏まえると、十分な目的達成が得られたのではないかと考えている。
- ・ 保護者の方からも御支持をかなりいただき、地域活性、津久井近辺の有効的活用といった部分についても高いメリットがあったのではないかと考えている。
- ・ 広報を通して、一人でも多くの方にこういった活動があることを知っていただけたが、実施となればどうしても人数が限られてしまうので、参加者、落選者から色々な声をいただいているので、継続的な実施を望むものである。

補足説明（事業担当課）

- ・ 行政の役割としては、地元との調整、広報的な部分を担った。
- ・ 具体的には、宿泊施設（三太旅館）の紹介、乗馬を行うための広場（三ヶ木親水広場）の使用にあたっての調整、市の広報、ホームページへの掲載を行った。
- ・ 三ヶ木親水広場の使用にあたっては、管理を行っている財産区において草刈りをしていただいた。また、代表の方が栽培しているブルーベリーを子どもたちを招いて、摘み取り体験をさせていただいたり、良いつながりができたものと考えている。
- ・ 地元からも、来年も是非こういった施設を使って実施して欲しいという声があったということは、この事業が十分確立されたものと考えている。
- ・ このようなことから、生涯学習センターとしての協働の役目は終了したものと考えている。
- ・ 今後は、ひきこもりや登校拒否の子どもが多い中で、馬を上手に使ったプログラムを作っていただき、そういった課題に対する解決の方向に持って行っていただければよりよい事業になるのではないかと感じている。

質疑応答（○：審査会委員、□：実施者、■：事業担当課）

- 最終的な教育的成果はどのようなものを求めているか。
- 学問領域から申し上げると、人と動物の関係に関して認知はされているが、実質的には確立がされていない状況にある。
動物を使って、障害者を含め人の健康に対して、どのように貢献していけるのか模索している状況にある。
- 行政の考えとしては、この事業は大変素晴らしいことであるが、協働事業でなくてもよいのではないかと、ということで良いか。
協働事業として実施しなければ、この事業は挫折してしまわないか。
- 生涯学習センターとして協働を捉えた場合、携わったところが、地元との調整が主であった。事業内容からすると、それ以上踏み込むことができなかつた状況にある。
事業自体は来年に向けて進めていった方がいいのであろうが、生涯学習センターとして協働するというものではないという考えである。
- 20名の定員であるが、どのくらい応募があるのか。
- 2回あわせて75名くらいである。
- 組織として、沢山出来ないと思うが、担当課の言うように健常者ではなくというところに絞った形で行った方が良いのではないかとこの気もするが、どのように考えているか。
- 70名の中に、数名障害者の方がおり、これに関しては、今回の事業の中では対応が難しいと考え、残念ながら除外させていただいた。
我々としても、その様なニーズがあるということは考えなければならない状況にはあると感じている。
少ない人数を対象とするのか、一般の方々総ての者を対象とするのか、事業として考えれば、一般の多くの方々を対象とする方が適切なのではないかと考えている。
- 将来的には、事業を自立させるという考え方なのか。
- そういった方向もきちんと視野に入れなければならないということは考えている。

No	事業の名称	実施者
7-2	動物との関わりから得られる総合的自然体験学習・出張型動物介在教育事業	<ul style="list-style-type: none"> ・麻布大学 ヒトと動物の関係に関する教育研究センター ・学校教育課

概要説明（実施団体）

- ・ 小・中学校を対象とし、現在までに3校実施してきている。
- ・ 最初に行ったのは、緑が丘中学校の特別支援学級で6名の生徒を対象に実施した。
- ・ 実施にあたっては事前に学校の担当の先生と打ち合わせを行い、その時点で一緒に犬を見ていただいている。
- ・ その後広田小学校において1年生は2クラス合同、3年生は1クラスずつ3クラスで実施した。また、若松小学校では1年生2クラス、2年生2クラスで実施した。
- ・ ヒアリング調書では11月9日に田名北小学校と書いているが、インフルエンザ流行の関係から、学校と協議の上、9日については中止とし、事前に予備日を設定していたので、そちらに延期することとした。
- ・ 13日、19日の実施をもって今年度の事業は終了となる。
- ・ 犬が来たことによって、子ども達にはとてもいい反応があった。
- ・ 小学校によってプログラムは異なる。命の大切さ、コミュニケーション能力の向上など目的に応じて、犬も選んで変えた。小学校のプログラムであれば、1回当たり5頭の犬とサポートに入るメンバーが10人となり、大がかりな体制で取り組んできた。
- ・ 学校ごとに保護者の見学も可能としたところもあり、地域の方々や学校の先生にも実際に見ていただいたことにより、事業の意義を理解していただくことができたと思っている。
- ・ 予算については、1校につき1クラス規模と想定していたのが、数クラス、数学年の希望を受けたので、今年度については予算の範囲で行うことは難しく、持ち出しとなってしまった。

補足説明（事業担当課）

- ・ 動物の飼育経験のない子どもが非常に多く、また、学校現場としても、昔のように動物を飼育できない状況にある中で、学校の単元と結び付けて行っていこうという事業であった。

質疑応答（○：審査会委員、□：実施者）

- 学校教育課として大変いい事業だとのことであるが、ヒアリング調書の評価が低くなっているが、何か課題はあるのか。
- ヒアリング調書を作成した担当者として、自己評価を厳しく行ったことから、評価が低くなってしまったものである。
- 22年度の事業予算額と、市負担希望額の数字が異なっているがどのようなことか。
 （事務局） 昨年の公開プレゼンテーションの際に、継続希望書に記載のある金額をベースとして、事務局であらかじめ記載をさせていただいている。動物介在事業については、自然体験型と出張型に分かれていることから前年度の負担額をもとに案分して市負担額を算出したものである。
 麻布大学さんが記載した金額は、それを抜きにして、今年度の実績を踏まえ積算をされたものである。

No	事業の名称	実施者
8	(仮) 生きるための学習講座 ～まなびなおし塾～	・NPO法人きょういく応援団 ・働く人支援課

概要説明（実施団体）

- ・ 6月1日に入塾式を行い、毎週月・水・金の9時から12時まで、全102回という事業計画の中で、65回を終了している。
- ・ 生徒数については、当初15名を予定していたが、在籍しているのは7名になる。
- ・ 7名の年齢は15歳から34歳までになる。男性が4名、女性が3名である。
- ・ 関わっているスタッフは、常勤で3名、理事が1名、協力者として関わっていただいている方が、現在までに10名いる。内訳としては、元教員が3名、きょういく応援団会員講師が5名、まったくの外部講師が2名となっている。
- ・ 通常の事業は、各個人と面談を行い個人の目標を設定しているので、個別学習を中心とし、内容としては小学校中学校で不登校となった生徒がいるので、基礎学力として足し算引き算掛け算割り算といったところから指導している者もいるし、履歴書の書き方、検定を目指している者、パソコンをやったり英語をやったりしている者もいる。
- ・ 特別事業として、ペン習字、ドラムサークル、調理実習、先日は多摩動物公園に行きフィールドワークを行ったり、社会保険労務士の方に来ていただき社会保険の話をしていただいたりしている。
- ・ 8月22日に団体が主催している「夏休みみんなの一日大学」のボランティアとして参加していただき、スタンプラリーのクイズ作成や制作物を作ったり、当日の実施に関わっていただいたりという体験もしている。
- ・ その他にインターンシップとしては、10月末までに3週間一人の男性が、職場体験をさせていただいた。
- ・ 今月の下旬からは女性が2名インターンシップに出ることとなっている。
- ・ 現在の問題点課題は、実際の想定した人数が集まらなかったということである。
- ・ 受益者負担として授業料を1日当たり1,200円いただいているが、料金設定が高かったのではないかと、などが考えられる。
- ・ 収入の部分に、受講料を入れていたので、会計的には非常に苦しい。
- ・ 若者の自立支援の機関との連携がなかなかとれなかった。受益者負担という点について、抵抗があったようである。もう少し、関係機関との連携を図っていく必要があったのではないかと思う。

補足説明（事業担当課）

- ・ 当初、事業の対象者は、読み書き計算の基礎学力が不足している方を想定していたが、実際に集まってきている方を見ると、そこまで学力の低い方だけではなく、資格を目指している方も多かった。
- ・ 広報の出し方、報道提供の出し方という点について、事業担当課としては課題があったものと考えている。
- ・ 若者の支援の事業として、学力面からサポートするという点で全国的にも珍しいというものになるので、もう少しアピールが必要だったと思われる。
- ・ 他の若者の支援機関との連携については、今後は事業担当課が仲介して事業が効果的に実施できるように進めて行き、お互いの強みが活かせるような形で実施していけるようにしたいと考えている。

質疑応答（○：審査会委員、□：実施者、■：事業担当課）

- ヒアリング調書の中のその他の意見欄に、3年後の継続について不安があると書かれているが、どのようなことか。
- 来年度予算の確保から心配な部分はあるが、とりあえず3年間の継続として事業提案をあげており、3年間は何とか実施していけるものと考えている。しかしながら、その後、行政との関係が切れてしまい、団体だけでこの事業を行っていくことは不可能であり、その点が不安であるとした。

- 15人想定していたのに7人、7人のうちさらに想定していない対象が入ってきているということは、想定している対象者はさらに少ないということになる。その原因としては、PRが不足していたと見るのか、根本的にそういう対象者がいないとは言わないが、その様な課題を抱えていたのか、どのように考えているか。また、費用負担の話がネックになっているということで、今年度は仕方がないが、来年度はその点を見直すのか。
- 相模原市は神奈川県の中でもおそらく不登校の生徒が一番多いといわれており、対象者が存在はしていると思うが、PR不足と受益者負担の部分で抵抗があったものと思っている。受益者負担については、1日当たりの受講料が1,200円であり、3時間行っているもので、時間にしてみれば400円になるが、当初の想定ではそれほど高くはないと考えていた。高いのであれば見直しはしたいと考えるが、来年度の予算確保が難しい中で、この部分をどうしていくかということについては、悩むところである。
- 受講料が1,200円というのは高いという印象を受けるが、行政としては、この金額で維持していくのか、下げていくのか、考えはどうか。
 - 1回当たりの受講料について、高いか低いかということについてはもう少し検討していかなければならないと思う。今年については、長期間にわたって負担するので、1人が102回ということになる。その期間を例えば前期後期に分けて、前期だけ参加していただく、そのまま継続したいという希望があれば後期も参加していただく、というような形で事業を分けること、分割してできないものか、現在協議している最中である。
- 家庭教師にほぼ近い形で行っているので、1,200円という金額は高くはないと思っている。
- 高くはないと思う。高くはないと思うけれども、ということである。

No	事業の名称	実施者
9	(仮) 森林再生・活用事業	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人ふじの森のがるでんセンター ・藤野経済環境課

概要説明（実施団体）

- ・ 今までのNPO活動と行政の目標が一致したから実施できる事業と捉えている。
- ・ NPO法人になったのは3年前であるが、活動としては20年ほどの実績を持っている。当初から里地里山の森林整備、農地の活用を目標にやってきた。
- ・ 今回の事業では、NPOのノウハウを活用して、景観伐採、名勝地の伐採等を行うことができないかというものであり、NPOの持つ技能と行政の課題がちょうど一致するものであったと考える。
- ・ 今回の大きな柱である景観伐採であるが、行政の方に場所の選定をしてもらい、日連山の景観伐採を行った。
- ・ 事業に着手した中で、なぜ今まで放置されてきたのかという印象を受けた。
- ・ 具体的には山の山頂から30mから40mの所の、樹齢50年～60年のナラの伐採を行った。
- ・ 景観伐採についてはまだまだ藤野町の中でやりたいところは沢山あるが、今回は1年目として、非常にいい所に着手できたと考えている。
- ・ 森林整備、枝打ち間伐を何故しなければいけないのか、そういったことも知ってもらうために、高校生を対象とした森林ボランティア講習会を7月に開催した。
- ・ 間伐材をどう活用するのか、雑木林については炭焼き、しいたけ栽培の原木に使ってきた。
- ・ 太木については搬送して市場に持っていけば売れるわけであるが、なかなかそこまでできないので、チェーンソーを使って、ログハウス、ログベンチを作れるように技能を積んできた。
- ・ 今後は、杉、ヒノキを薪ストーブに活用できないか、また、なめこ栽培についてもやっていきたいと考えている。

補足説明（事業担当課）

- ・ この事業については、水源地域の現状を旧市の皆さんにも知っていただく、また、地域においては、お客さんが来ることや商品を開発することで地域の方にも年金+αの生きがい対策になったり、という市民の福祉向上を目指して行政提案させていただいたものである。
- ・ 藤野地域は1万700人くらいの町ということがあり、地域間交流であるとか人とのつながりが大変濃い地域である。
- ・ これまでもひとつの事業を展開するにも、行政と市民が信頼関係、協働体制を築き上げてきている。
- ・ 今回の事業は、牧野地区と日連地区で行ってきたが、藤野64集落、各地区でそれぞれの里づくりが行われているが、各地区への波及効果が見られた。
- ・ 今後この提案制度については、ますます藤野地域住民は活用する方向になると考えている。

質疑応答（○：審査会委員、□：実施者、■：事業担当課）

- 継続について確認したい。ヒアリング調書の中で、22年度の事業予算はゼロと書かれており、市への負担金希望額もゼロとなっている。その他のところに、資金提供に重点を置かないパートナーシップの体制を築いていきたいとの記載があるが、来年度の事を聞かせていただきたい。
- 今回行政提案と言いつつ、NPOが環境分野のエキスパートであったということから、NPOが主体となって実践していただいている。また、初期整備として、チェーンソーなどの備品を購入させていただいている。これを購入することによって、今後のNPO活動がさらに発展することが期待できるということで、来年度の予算はゼロとしている。
また、来年度は別の提案事業も藤野から出てきているので、そのバランスも考えている。

No	事業の名称	実施者
10	(仮) 市民活動PR事業 ～市民活動推進普及啓発事業～	・NPO法人ナレッジ・リンク ・市民協働推進課

概要説明（実施団体）

- ・ 様々な市民活動団体を取材させていただき、映像番組を制作する事業を実施している。
 - ・ 映像を通して、市民活動の必要性や魅力を市民に対して周知して行くものである。
 - ・ 市民活動の促進や活性化を図る狙いが一つと、当法人の特色になる若者支援という視点として、若者を登場させることで、結果として映像を見た若い世代への周知効果のアップ、市民活動の次世代の担い手の創出につながるということ、同時に登場した若者自身の社会体験の場の提供という狙いを持っている。
 - ・ 実施計画の概要として、大枠の役割分担として団体側が番組の制作と若者の調整、行政側が番組の周知を中心に行っている。
 - ・ 今現在、当初の予定通り進んでおり、前期分が終わり後期の事業に取り掛かり始めている。
 - ・ 前期の取材先団体の選定にあたっては、結果として、協働事業提案制度事業を実施している相模原おもちゃドクターの会さんとNPO法人境川の斜面緑地を守る会さんの2団体をお願いすることとなった。
 - ・ 7月5日に撮影を行い、7月8月にかけて撮影した映像の編集をおこない、その際にも市民協働推進課、実際に取材協力いただいた団体にも協力をいただきながら必要なバージョンアップを重ねて、9月に正式に2番組を完成させるに至った。
 - ・ 9月18日に後期取材団体の募集も兼ねた前期番組の上映会を行った。
 - ・ 10月には、行政側で番組周知活動が行われた。
 - ・ 11月19日には、後期の撮影を行う予定となっている。
 - ・ 協働の関係性としては、実際の打ち合わせのほか、電話、メールでかなりきめ細かく相談をしながら進められていると感じている。
 - ・ 事業の成果としては、制作した番組をこれから周知を始めていくというところであり、活性化につながったかどうかということは、これから見ていくところである。
 - ・ 若者の社会体験参加というところでは、実際に参加した若者の声として、市民活動がこんなに有意義、楽しいものなんだ、必要性をすごく感じたというものをいただいている。
 - ・ 今回参加した者は仕事を持っているが、仕事だけの毎日の中で、ワークライフバランスということにもなるが、市民活動の有用性が非常に大きいものと感じている。
- 改めて、市民活動の周知・活性化の必要性を再認識した。

補足説明（事業担当課）

- ・ 行政の役割として制作したものを周知することがあげられるが、大学への配布はこれからとなっている。大学のボランティアセンターなどにアプローチをかけていきたいと考えている。
- ・ これまで、行政単独で行うものについては、市の施設の中での放映になってしまっていたが、今回の事業を契機として、これまでの視点を変えて、家電量販店などでも放映することができないものか、新たなチャレンジにも結びついている。企業さんの社会貢献にも結び付けばと考えている。
- ・ 観光など、市民の方がビデオを撮っている場面もあり、今後、市民の皆さんが撮ったものをまちかどで流せるような方向に持っていくことができればとも考えている。

質疑応答（○：審査会委員、□：実施者）

- DVDを作るにあたり、作る方の楽しみや成果というものはあるかと思うが、見る側の対象をどのように考えているか。
 - 団体との打合せ、その結果を持って市とも打合せを行い、市民活動をただ知ってもらうということではなく、団体さんの紹介にとどまらず、その活動が相模原市全体の中でどういう意義を持つものなのか、その活動に参加していない人のためになっているのか、ということをお話するとともに、実際に、違う活動であってもそれを見た視聴者の人が、その人らしい市民としての市民活動のあり方というものを考えて、実際の小さな一歩につなげていく、その様な啓蒙活動を目標にやっていくべきだということを確認しながら撮影、編集を行っている。
 - たまたま見る機会があり、大変良くできていたので、市民活動を知るのに非常に良い媒体だと思う。
- いかに見ていただくかということが大事であり、DVDの限界もあるので、その点については機会をとらえて、違う媒体も使って周知していただければ、作っただけではないということになると思う。
- また、協働事業を中心として紹介してあげると、協働事業自体の広がりにもつながるのではないか、その様な取り組みをされてもいいのではないかと感じた。

7. 公開中間ヒアリングの様子



公開の場

平成20年度に採択され、平成21年度から取り組んでいる10提案11事業について、事業の進捗状況や協働の関係性を確認する場として開催しました。

また、協働事業提案のプレゼンテーション同様、公開することで制度の透明性を高めるとともに、協働に対する理解を深める機会としています。



会場設営

協働事業提案制度では、実施団体だけではなく事業担当課も同席し、協働事業審査会に対し事業の取り組み状況の説明が行われましたが、今年度は、国で行われている、「事業仕分け」を意識した会場設営がされました。



審査会委員による質疑

今回の中間ヒアリングでは、4名の審査会委員さんに出席をいただき、提案のとおり事業が進んでいるか、協働の関係性はどうか、また、次年度も継続を希望している事業についてはその妥当性についてどう考えるか、という視点でヒアリングに臨んでいただきました。



実施団体と事業担当課による説明

協働事業提案制度では、実施団体だけではなく協働事業として実施していることから、ヒアリングの場面でも、実施団体連携・協力・補完しあいながら、説明が行われました。